

別記様式(第5条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成31年度(令和元年度)第3回総合教育会議	
開 催 日 時	令和2年1月28日(火)	午前10時45分から 午後 0時11分まで
開 催 場 所	福津市役所 別館1階大ホール	
委 員 名	(1) 出席委員 柴田教育長、藤井委員、青木委員 半澤委員、今村委員	
所 管 課 職 員 職 氏 名	原崎市長、松田副市長、本多理事兼まちづくり推進室長、榑まちづくり推進室参事、榑教育部長、重富教育部理事兼教育総務課長、堀田文化財課長、神山学校教育課長、永松主幹兼指導主事、藤岡指導主事兼教育指導係長、伊澤指導主事兼教育指導係長、大峰教育施設係長、笹田総務企画係長、松本	
会 議 議	議 題 (内 容)	「新設校について」
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非 公 開 の 理 由	
	傍 聴 者 の 数	2 名
	資 料 の 名 称	
会 議 録 の 作 成 方 針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
会 議 録 署 名 委 員		
そ の 他 の 必 要 事 項		

1 開会の宣言

榊参事：おはようございます。時間となりましたので、ただいまから、平成31年度（令和元年度）第3回福津市総合教育会議を開会いたします。私は、本日の進行を務めます、まちづくり推進室の榊でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の会議は、お手元にお配りしております会議次第に沿って進めてまいります。

傍聴希望の方が2名いらっしゃいますが、御案内してもよろしいでしょうか。ではお願いします。

2 挨拶

榊：まず初めに、原崎市長より御挨拶をお願いいたします。

市長：それでは、教育委員の皆様、おはようございます。

本日の議題は新設校についてでございます。

福津市は本当に児童生徒数が増え、全国の市長さんともお話しする機会が年明けにございましたが、福津市外から見ますとそういう元気な町、活力のある町ということで、うらやましがられたり、そのようなお言葉をいただいたりすることがあります。

私自身、市長になりまして3年でございます。これまで、常に子ども達、また子育て世代の方々に、「福津市に住んで、良かったな。」とだけ思っていたように教育環境の整備をできる限りおこなってきたつもりではあります。これはソフト面、ハード面ともにそうであります。

現在、今年度約半年をかけまして、この新設校を含めた学校整備の協議をしてまいりました。その結果、市の方針として、本日お配りしている資料の中の第1案を示させていただきました。このようなことにつきまして、本日協議を行いたいと思っております。

児童生徒数が増えている学校もございますが、少子化が進んでいるエリアもあります。それぞれ課題は違う中で、平等に全ての子ども達が健やかにたくましくしっかり育っていくことを考える中で、これまでコミュニティ・スクールを先進的に取り組んでいただきましたが、これからは小中一貫教育も推進していくということで、教育懇話会にそのようなことをご協議いただいております。

新設校についてを議題としながら、フリートークに近い形になるかもしれませんが、私自身も御質問受けましたらお答えできるところはお答えします。現状福津市がおかれている教育の

内容につきまして、また新設校につきまして、忌憚のない御意見をいただきながら、有意義な協議の場にさせていただければと思っております。

よろしくお願い申し上げます。

榊参事：ありがとうございました。

本日の協議日程です。会議次第をご覧ください。

現在、本市における喫緊の課題である、新設校についてをテーマに、市長と教育委員の皆様と協議をしていただきたいと考えております。

会議終了時間は午前12時頃を目途に予定しております。

会議参加メンバーは、次第及び席次表のとおりでございますので、執行部の自己紹介は省かせていただきます。

事務局を含め、市執行部にはお願いですが、最初に発言される際に、所属部署と御名前を言ってください。

では、これから先の協議事項については市長の進行でお願いいたします。

3 協議 「新設校について」

市長：はい。わかりました。よろしくお願いいたします。

今年度は第3回の総合教育会議となります。

平成27年度より平成29年度までは、福津市総合計画の施策の検証や、福津市教育大綱の策定についての審議を行ってまいりました。

平成29年度末に策定した福津市教育大綱では、「福津を愛し、人との関わりを大切に、未来に向けて学び続ける人づくり・まちづくり」を基本理念とし、9つの基本目標を掲げております。

この9つの基本目標について、平成29年度の第3回から平成31年度第1回の会議までにおいて、1つまたは2つのテーマを選択してこれまで協議を行ってまいりました。

今年度第2回の前回の会議では、『教職員の働き方改革について』をテーマに協議を行いました。

今年度第3回の本日の会議は、『新設校について』をテーマに教育委員の皆様と協議を行いたいと思っております。

現在、福津市では地域に偏りはありますが、人口増加に伴って児童生徒数が急増している校区があり、そのことへの対応は、市の喫緊の課題となっております。

義務教育の環境を整えることが市の責務であり、教育活動に必要な教職員、教室、特別教室、備品等の確保だけでなく、子ども達の教育にとってどのようにするのが一番よいのか、このことについて考える必要がございます。

市の方針につきましては、教育委員会定例会において、教育

委員の皆様には説明を行っているとのことでございます。本日は資料のみ配付しております。

子ども達がいきいきと学ぶための教育環境をどのように活用し、どのように進めていくべきか、このことについて教育委員の皆様と一緒に協議・意見交換を行ってまいります。

どのようなことでも結構ですので、教育委員の皆様からの御意見をいただきたいと思いますと思っております。

よろしく申し上げます。

では藤井委員さん、申し上げます。

藤井委員：保護者として考えたときに、やはり親は、子どものいきいきとしている姿を見たいと思います。学校内の学習や部活動において、我が子の成長や、地域の子どもの輝く目を見たいと思います。

ただ、過大規模校の場合、例えば部活動において子ども達が活躍できる場があるのか、そういったことを考えます。やはり一人一人が輝ける場を作ってあげたいと思います。

そう考えると、やはり1日でも早い新設校建設の必要性を感じます。現在、工事中の学校もあるということで、小学校と中学校がずっと工事で終わる子どももいると思います。令和6年度開校には遅いぐらいという声も聞いていますので、子ども達のために1日でも早く、新設校の計画を進めてほしいと思っております。

市長：ありがとうございました。

それでは、次に半澤委員さん申し上げます。

半澤委員：まず、現状、福間小学校と福間南小学校と津屋崎小学校が過大規模校となっています。福間小学校と福間南小学校は1,000人超えということです。

運動会や体育祭を考えると、児童生徒が1,000人いる学校の場合、1人に対して両親が見に来ると3,000人、おじいちゃんやおばあちゃんが見に来ることを考えると、その学校内に3,000人以上の人数が入るということで、スペース的に厳しいと思います。

部活動では運動場のスペースの確保が難しいと思いますし、体育の授業でも、体育館やグラウンドのスムーズな利用は難しくなっていると思います。例えば火災が発生した時に素早く安全に避難ができるのか、校庭に避難をしたとして消火活動の妨げにはならないのか、といったことも大規模校では課題として考えられると思います。

それ以外にもいじめや不登校の問題への対応が煩雑になるといったことも考えられます。以前、学校訪問に行かせていただきましたが、過大規模になればなるほど、不登校の子どもが増えるなど、先生と生徒の間の繋がりが希薄になっていくのではないかという懸念があります。

そのようなことを踏まえ、なるべく早い段階で新しい学校を建て、適切な人数の教育環境を、福津の子ども達に用意してあげたいという気持ちが第一にあります。

令和6年度には教室数が足りなくなるということは、数字として出ているわけですので、教室が不足した場合に、子ども達はどこで勉強するのか、ということを保護者の方は一番心配していると思います。

そのためには、もう動き出さないといけない時期に入っているのではないかと思います。

市長：はい。ありがとうございます。それでは今村委員お願いします。

今村委員：では失礼します。

いただいた資料に沿って話しますが、令和6年度から児童生徒数が伸びています。そして、しばらくの間、過大規模校の状況が続くということで、このことは緊急の課題だと思います。

福間南小学校の運動会を見に行きましたが、保護者を合わせるとものすごい数でした。保護者の立場からしてみると、やはり何とかしてほしいと思いますし、何よりも子どもが一番犠牲になるのではないかという気がします。保護者への負担もいくと思います。議会でも二人の議員の方から質問が出たということで、議事録も拝見させていただきました。議員の方は住民の代表でもありますし、そのような点から見ても住民の方も何とかしてほしいという思いが強いです。

新設校を令和6年度までに間に合わせるということを考えると、この案の中では、竹尾緑地に新設する案が良いと思います。手光地区に新設する案は時間がかかるでしょうし、早くできる場所として、竹尾緑地の方が良いと思います。喫緊の課題だと思いますので、早く決める必要があると思います。

以上です。

市長：どうもありがとうございます。

では、青木委員お願いします。

青木委員：はい。私も他の教育委員の方とほぼ同じ意見なのですが、この資料を見させていただくと、やはり手光地区に新設の場合は、予算的なものや時間的なものが大きくかかってくるようですので、子ども達が増えている現状の中では、予算や時間、また郷づくりのことを考えると竹尾緑地に新設の中学校という案が良いと思います。一年でも早く今の過大規模校を解消するための方策を急ぐ必要があるのかなと思います。

市長：ありがとうございます。

半澤委員と今村委員から運動会についておっしゃっていただきました。現在運動会は、年に1回の一大イベントでございます。今年、福間南小学校と福間小学校の運動会を見に行きました。福間小学校についてはテントを禁止して、保護者は校舎か

ら見ていました。それはやはり約1, 100人の児童数に対して運動場が狭いことが理由です。福間南小学校はもう既に1, 300人になっており、テントを並べることは許可されておりましたが、テントがとても多く、大きなイベントをやっているような感じでした。今後福間南小学校はさらに運動場が狭くなります。

現段階の福間小学校の児童数は1, 100人、何もしないと令和10年には1, 800人になります。福間南小学校は今後1, 600人を超えます。

今回新設校を、可能な限りスピード感をもち、なおかつお金がかからない方向で、市の方針を示しております。私の認識の中で、これが苦肉の策でもあるというのは、中学校を竹尾緑地に新設し5-4制にする場合であっても、福間小学校はピーク時に、今よりも400人多い1, 500人台になります。福間南小学校もピーク時は1, 400人台になります。過大規模校の状態が1日でも早く、また現状より悪化しない方向でということで、この竹尾緑地に新設中学校の案がありますが、これには5-4制もセットになっております。このあと5-4制についても教育委員の皆様の御意見をいただきたいと思っております。

5人の議員の方より12月議会で質問をされました。私も市長として、議会の場でも答弁しております。「今後児童生徒数が1, 800人に近い学校が市内に3校できます。また津屋崎中学校区でも児童生徒数が増えております。1, 800人の学校というのは全国には無いわけですので、そのような学校はあり得ません。あり得ないので、新設校を建てることは御理解いただきたいと思っております。」と、12月の議会の場でも答弁させていただき、その後、この案を策定いたしました。

本当に100%のベストなものはないという中で、特にこの1案を示させていただきました。1案の場合であっても、今既に福間小学校が大変な状況ですので、1, 500人になった場合どのようにしたら良いのかということも考えています。令和6年になりますと、現在整備を進めている福間小学校、またこれから工事が始まる福間中学校の教室がもう足りなくなります。足りなくなるので新設校を建てる必要があるということなのですが、新設校を建てても、どの学校も今以上に児童生徒数が増えてしまいます。これから10年が経過しても、子どもの数が減少するのではなく、約15年は児童生徒数が増え続け、ピークの後も、児童生徒数がすっと落ちるわけではなく緩やかに減少します。

従いまして、今後新しい中学校が1校だけで足り得るのか、といったことや、中学校を新設した場合のその後の対応についてなど、皆様からご意見をいただきたいと思っております。新設校を竹尾緑地に配置したとしても、この児童生徒数増加の中

で、どのようにして一人一人が輝ける教育を受け、育っていくか、ご意見をいただきたいと思っております。

5－4制についてでもよろしいのですが、今私が言ったところも踏まえて、感想等いただければと思います。

青木委員：この人口増加は、去年や一昨年に始まったことではなくて、このような状況になることは、もっと早くから想像もできていたと思いますので、何年も前からこのような協議をしていた方が良かったとは思いますが。

現在、とにかく急ぐ必要があるということと、小学校は新設せず中学校を新設するという事でこの1案になったのかなと思います。5－4制を導入している他の自治体のモデル校の視察にも行ってこられたりして、その話も聞きました。6年生が中学校で授業を受けるということで、教室不足についても少しは解消できる案だと思います。

とにかく早く新設校を建てていただきたいと思います。小学校については、しばらくはずっと児童数が多い状態が続きますので、もしかしたら何年か後に、今度は小学校を建てる必要がある状況にもなるかもしれないとは思いますが、現状できることは、少しでも早く中学校を1校新設することだと思います。

市長：勝浦小学校や上西郷小学校は少し違うのですが、福津市の今後の児童数は増加します。そうなりますと校舎の増築が必要になります。増築をすると、運動場はまた狭くなります。令和6年には、現実的に何もしないと教室が足りなくなります。そのような中で、5－4制であったら、最大限そのメリットを生かして、児童の交流や教職員の交流をするということです。例えば、中学校の教員が小学校に音楽の授業を教えに行ったり、小学校の教員が中学生の授業のサポートに入ったりすることが考えられます。ただ児童については、6年生は中学校に行き、そこで学校生活を過ごします。既に5－4制を取り入れられている京都市の学校に、教育長も含めて教育委員会で視察に行かれておりますので、5－4制を生かした取組についてもお聞きしたいと思います。

今回の1案で新設校を建てたととしても、福間小学校の児童数は増えますので、この狭い運動場についても同時に対応し、考えていく必要があります。緩和はされるのですが、児童数は増えていきます。

小学校については、毎日、朝から夕方にかけて、休み時間はいつでも運動場に出て遊びまわることが理想です。そのことが、現在福間南小学校の場合はできていません。

それから中学校の場合、福間中学校と津屋崎中学校と福間東中学校の運動場は、平均で4ヘクタールあります。野球部や、ソフトボール部、サッカー部、陸上部、テニス部もある中で、全力で部活動を行うためには、最低2ヘクタールは必要だと思

います。

本日お配りした案について、教育委員の皆様はどのように考えられているかお聞きしたいと思います。それぞれ小学校と中学校は、今後とも児童生徒数が伸びていきますので、それについての対応や、どのようなことが考えられるか、そういう御所見なり意見を伺えればと思います。

今村委員：5－4制について、ということでしたが、5－4制と学校新設は切り離して考えないと難しいと思います。一番良い方法としては、小学校と中学校を1校ずつ建てることだと思うのですが、なかなか用地の買収や広さの関係などで難しいところがあると思います。

この資料を見ると、福間中学校は令和13年度に1,800人以上になります。ということは1学年600人以上の生徒ということで、15クラス以上ということになります。

かつて古賀中学校が、それぐらいなつたことがあると思うのですが、1学年15クラスというのは異常なクラス数だと思います。二つの小学校から来ることになるので、まずは中学校を建てるということが一番大事だと思います。

可能であれば、福間小学校と福間南小学校からそれぞれ半数の児童が通う、新しい小学校を1校新設する方が良いと思うのですが、それはまた用地の問題などがあると思います。

従いまして、中学校をまず1校新設していただきたいと思います。そして、そうした中で5－4制を導入して、6年生だけを移動させるという考えもでてくるので、2番目の考え方だと思います。

最初はまず用地のことを考えて中学校を建てる。中学校だけの場合は、用地はそんなに広くなくても良いと思います。手光地区の方がフラットで整地はしやすいとは思いますが、中学校をまず解消するということが第一だと思います。

以上です。

市長：どうもありがとうございます。

半澤委員：私は、最初に5－4制について聞いたとき、そんな手があるのかと、とても驚きました。

小学1年生から6年生までは小学校に行き、中学1年生から3年生までが中学校に行くというのが普通ですので、私はそのようにしか考えていませんでした。現在、小学校も中学校も足りない状況ですので、どちらも建てないと解決しない問題なのだろうと考えていました。

しかしこの1案は、竹尾緑地に中学校を1校新設して、さらに5－4制を導入することで、小学校の人数も6年生の分を減らせて、中学校の人数ももちろん半分になり、しかも校区の再編もする必要がないということです。福間小学校で勉強した子どもたちは福間中学校に行き、福間南小学校で勉強した子ども

たちは新しい中学校に行くということで、とても分かりやすいなという印象を受けました。このような画期的な方法があったのか、福津市はこのように打って出る形で進めていくのかと、わくわくした印象を、最初に説明を聞いたときに受けました。

福津市全体が5－4制になるわけではないということでしたので、5－4制を導入していない校区から御意見が出たり、入学式や全体の行事の時は移動などが発生して大変であったり、懸念事項もあるとは思いますが、1校しか建てなくてよいということで、費用も抑えられ、現状を早く回避できるということを考えれば、とてもプラス面が多い案を出してこられたな、という第一印象を受けました。

市長：はい。ありがとうございます。藤井委員はいかがでしょう。

藤井委員：私もこの1案が一番良いと思います。小学校もちろん規模は大きくなっていきますが、やはりこのグラフを見るとこのままでは中学校がとても莫大なクラス数になってしまうので、まずは中学校を新設しないといけないと考えています。

そして、5－4制を導入し、小学校6年生が中学校で学習することによって、自分の近い未来像がイメージでき、早く中学生になりたいという意識が芽生えると思います。中1ギャップの緩和に繋がると思うので、5－4制を取り入れた方が良いと思いました。

先ほど、運動場の話が出ていましたが、もし学校を新設するとしたら、大きめの多目的グラウンドや温水プールなどをつくっていただきたいと思います。そして、そのような場所は、ぜひその新設校の生徒だけではなく、他の学校の児童生徒や、さらには市民も使えるようにしていただけると、今後いろいろな活用ができると思います。現在福津市は『住みやすいまち』と言われておりますので、そのような学校の学習環境なども整えてほしいと思います。

以上です。

市長：はい。ありがとうございます。

学習環境の整備というのは、本当に重要です。来年は特別支援教室も増えますので、特別支援教育支援員の方やスクールソーシャルワーカーの方などをさらに配置するために、予算の増額の議案を今年度の3月議会に上程します。またICT教育の環境整備等もあります。

今お聞きしていると、まずはとにかく中学校を新設してほしいということですね。学年は3学年しかないのですが、1学年だけで600人となると、全体で1,800人になります。

従いまして、まず中学校は必ず必要だということですね。今のところ、1案ではその後、小学校を新設するということは想定していません。財政のことも考える必要があるからです。中学校を新設し、5－4制を導入することで、小学校の児童数の

増加を少しでも緩和できるという考えであります。

委員の皆様から一通り御意見を賜りましたので、次に、本日お配りしておりますこの資料についてもご意見をお伺いしたいと思います。

皆様ご存じかもしれないのですが、竹尾緑地はもともと環境を生かした福津市の市民に開かれた公園です。従いまして、様々な厳しい御意見もございます。竹尾緑地が都市公園に決定されたのも、6年前の話であり、そんなに昔の話ではありません。

中学校を新設する場合は、費用を最小限に抑える必要があります。中学校には部活動があります。福間中学校にしても福間東中学校にしても津屋崎中学校にしても運動場の面積は広いです。福間東中学校ができる昭和53年に、前の前の市長の池浦さんは、当時、該当業務に関わっておられたので話をお聞きしたのですが、運動場の確保がとにかく大変だったということでした。「本当は学校に隣接した、このミカン畑の場所を運動場にする方が良く、一坪あたりの土地の金額も安かったんだけど、なかなか当時の状況とは合わず、運動場が離れた場所になったんだよ。」とおっしゃっていました。

都会の場合は、運動場が狭くどのように運営しているのだろうと思うときもあるのですが、福津市の場合、自然に恵まれているということも魅力であります。

新設校をつくる場合、新しい校区の生徒が強制的にその中学校に通うこととなります。

福間中学校と福間東中学校と津屋崎中学校の空撮の写真をみると、校舎並びに体育館がある場所以外はほぼ運動場です。校舎と運動場の比率が、1：3並びに1：4ぐらいになっています。

今回配られた資料で分かる通り、現在の案ではこのような形になっています。自然が残っていますので、自然に配慮した新設校の設置となっています。

既存の3中学校がある中で、新しい中学校をつくるということは、勉強と部活がどちらもしっかりとできるように、ハード面の整備などをしなければいけないと思います。こちらは私の方が用意させた資料ですが、この1から4までのレイアウト案を改めて見ていただきたいと思います。想定される運動場の案も載っています。新設校だからこそ、子ども達が伸び伸びたくましく輝くことができる施設にする必要があります。

教育委員の皆様は、この資料をもしかしたら初めて見られたかもしれません。自然は残っていますが、運動場の面積があまりない、というところもありますので、部活動等も想定しながらこの案を見られて率直にどう思われるか、お聞かせ願いますでしょうか。

青木委員：私は、このレイアウト案の中では4案が良いかなと思います。もし将来的に子ども達が減少し、校舎を使わなくなったときに、このように分かれている建物のほうが、様々なことに活用できるのではないかと思います。レイアウトの1から3までの案は、今まである学校の形式だと思います。将来的な活用のことを考えないとしても、このレイアウトの4案の学校の方が、『新しい学校』というイメージが出てくると思います。

市長：自然に配慮しているもので、それぞれ違う配置のレイアウトになっています。20年後や30年後に児童生徒は減ると思いますが、学校を新設するという事なので、廃校にするということはありません。あり得ないので、どの場所に学校をつくるか、ということが非常に重要になってきます。

私がお聞きしたいのは、運動場についてです。現在の3中学校は校舎以外ほとんど運動場になっています。

5-4制の中学校を新設した場合、6年生も収容できる教室数並びに床面積でつくることになります。確実に1,000人規模の4学年がここで生活します。運動場だけの話ではないのですが、運動場の確保についてはどのように思われますか。

今村委員：このレイアウトの1案は従来型の校舎と体育館と運動場ですね。2案は、校舎と体育館が隣接しています。3案は校舎が2つに分かれており、繋がっていますが体育館が横にあります。青木委員が支持されたこの4案については、ユニークな形で、真ん中に校舎があり、その周りをまた校舎が囲んでいます。これは恐らく職員室だと思うのですが、1階建てと2階建てに分かれています。

市長は運動場のことを言われておりましたが、どの案も200mのトラックがありますので、運動場としては確保できていると思います。部活動については、まだ分からないところもあるのですが、教育活動には差しさわりのないということです。

敷地としては少し狭く、他の学校に比べたら、運動場の割合が少ないというのは事実だと思います。例えば福間東中学校はものすごく用地が広く、運動場も広くあります。しかし、それは、当時それだけの用地を買収するだけの土地と費用があったということで、今回の場合はある程度やむを得ないのではないかなと思います。部活のことは、別に考える必要がありますが、教育活動がしっかりと行えれば良いと、私は思います。かえって自然が周りにおいてユニークな学校ができるかなという気はします。

また、福津市の南部の方には中学校はありません。今後の発展を考えた場合、イオンモールの向こう側の土地が今後どうなるかまだわかりませんが、調整地になっている場所もあるようですので、そういう点で考えたら、この場所とこの規模でも良いのではないかなという気はします。

市長：そうですね。部活のことは置いておいて、体育の授業等の学校教育は、200メートルトラックで賄えるということですね。

今村委員：普通の教育活動を行うことができれば、私はそれで良いと思います。早く過大規模校を解消するということが、緊急の課題かなと思います。

青木委員：運動場の場所は、レイアウトの1案から4案までほぼ同じ場所ですよね。ここは平地なので、運動場にするには一番工事費が安く抑えられるということで、このようになっているのだと思います。

将来的に運動場がやはり狭いなということになったら、どちらかサイドの山を削って広げるということはあるだろうと思います。

やはり校舎の建設を早く行うということに重きをおいてほしいと思います。

市長：そうですね。もちろん造成費などはかかってきますが、山を削れば、運動場を広くすることは可能です。

運動場が狭いのではないかという印象をもたれるのではないかと予想していました。もちろん新しい学校ですので、これから保護者へ説明を行うことになります。部活動も含めての中学校だったりするので、どれぐらい運動場が確保されるのかということも協議しながら進めていかなければいけません。新設した後に、要望があれば運動場を広げる。それとも新設する前に運動場を確保することを考えて、総事業費を見直す。ということはすごく重要なことでもあります。山を切るのは本当に大変なお金がかかります。

今村委員と青木委員のご意見としては、まずは、とにかく学校をつくるということですね。

学校ができると、この校区の子ども達はここに行ってください、となるわけですので、私としては、中学校だからどうしても運動場のことは気にならざるを得ないところがございます。ここに新設する場合、今まで福間中学校に行っていた子どもが、行くことになります。教室に余裕はでき、新しい学校になったとしても、野球部の子どもは、どこで野球をすれば良いのか、ということになるといけないと思います。

今村委員：このレイアウトを見ると、例えばテニスコートはないですね。もちろん最初からテニスコートがある学校はあまりないとは思いますが、いわゆる陸上や野球以外の体育会系の部活は確かに難しいと思います。体育館があるので、バスケットボールやバレーボールあたりはできるとは思いますが、ある程度部活動が制限されるのは、仕方がない部分もあるとは思いますが。

さっきも言いましたように、教育課程に沿った、日常の教育活動ができれば良いと思います。ただ保護者からすると、何でこの部活がないのか、といった意見が出る可能性があるとは思

います。体育会系ばかりではなく、文科系の部活動を増やして、校舎内でできる文化活動を盛んにすることも、ユニークで良いのかもしれませんが。

市長：そうですね。そのような考えも分かりますが、子ども達は余り条件づけをされることなく輝かなければいけないと思います。勉強のために学校に行っている子どももいれば、部活のために学校に行っている子どももいると思います。

中学校を1校新設して、5－4制を導入するという一方で、画期的で、そういうやり方があったかと思われたということですが、5－4制という新しい仕組みが導入されます。コミュニティ・スクールや、小中一貫教育などについては、事務局から定例教育委員会でもお話をされているかもしれませんが、皆さんのほうが多分御存じだと思います。よろしければ、残りの時間でご意見をいただきたいと思います。

今既に、福間小学校と福間南小学校には多くの児童がいます。だから早く、過大規模校解消に向けて取り組む必要があります。早く取り組むのですが、やはり児童数は増えていきます。主に運動場について話をしてきましたが、5－4制を導入した場合、子ども達は学校生活をどうやって伸び伸びと過ごしていけるのだろうかと思います。今既に伸び伸びできておらず、子ども達には我慢してもらっています。この子ども達が我慢し続ける状況は、竹尾緑地に中学校を新設しても続いていきます。

これから、児童生徒数は増えていきますので、運動場についてだけではなく、現状を改善していくためにどうすれば良いのか、感想等も含めていただきたいと思います。今の案でいくしかないのではないかという意見や、やっぱり運動場用地を確保する必要があるといった意見があると思いますので、そのようなことを述べていただければと思います。

今村委員：今市長が言われたこともよく分かります。一番良いのは、小学校と中学校を別々に新設することだと思います。しかし、それは用地の問題などがあるので、実際にはなかなかできないと思います。

この過大規模の現状は、市長が言われるようにずっと続くと思います。そうすると、一番良いのは、中学校を竹尾緑地に新設するとしたら、小学校は福間南小学校と福間小学校の児童が半分ずつ通えるようなところに新設することだと思います。しかし、それはなかなか難しいというか、できないものだと思います。

これから30年はこの問題が続くと思います。早く解消してあげないといけないと思います。

市長：理想は、そうですね。多くても児童生徒数が、1,200人ぐらいの学校が良いと思います。

私自身、市長になった時に、1,500人規模の小学校や中学校が3校か4校はできるのだろうと覚悟していました。1,500人規模の学校の場合は、増設を行うことや、運動場を他にもどこか確保するなどの対応も考えていました。子どもの数が1,800人の学校は、全国に1校もありません。従いまして、平成30年12月に通学区域審議会を開いていただき、小中一貫型の学校新設をぜひ進めていただきたいと思います。並びにできるだけ校区割変更がない形でつくるのがベストである、という答申をいただいております。

福津市はコミュニティ・スクールという横のつながりを進めてきました。宗像市は小中一貫教育を先進的に進めてきました。福津市もこの縦のつながりの小中一貫教育を取り入れていくということです。同じ宗像地区で教職員の異動もありますので、宗像市のほうにも、福津市を参考にコミュニティ・スクールの学んでいただきたいと思います。教育委員の皆様は、クリーンな立場でもあられますので、小学校についてどのように思われるか、御意見があったらお聞きしたいと思っていました。

このような時期になっておりまして、このことが常に頭から離れないこの数カ月を送っております。悩んでいるわけではなく、日を経れば経るほど、また私だけで決められる問題でもないので、庁内の経営陣と話し合わなければいけないと思っています。その中でも市が進めたいと思っている案を一つ決めます。議会の皆様、市民の皆様、いろいろな関係団体の皆様、保護者の皆様、郷づくりの皆様にも、1案を示しておりますが、それについての懸念事項や、やはり他の施策もいるのではないかと、いるとしたらセットで考えないといけないのではないかと、そういう意見が出るのが重要だと思って方針を示させていただいたところでございます。

私が市長になってから今まで3年間、増築で進めてきました。常に後追いで遅いのではないかとと言われており、この学校新設に関して結局後追いじゃないかとなりたくありません。

時間がないということを考える必要はありますが、本当にここに新設する必要があるという確信が必要だと考えています。新設した後に次から次に質問がきて、そこまでなるとまた学校が必要になってまいりますかね、とはなりたくない、というのがあります。この辺のところは勘所といいますか、大変なところであると思っております。

最後に視察にも行かれて、決して例は多くないけども、既に5-4制も取り組んでいるところも見てこられました教育長にも、どういう5-4制が考えられるのか、どういう効果が期待できるのか、また課題は何かというところなども踏まえながら、それから今まで協議してきたところも踏まえながら、ご感

想とご教授をいただければと思います。

柴田教育長：教育委員の皆様のご意見をお聞きしますと、過大規模校の解消に向けて手を打つ必要があるということは、皆様共通したものだと思います。

完全に解消するためには、小学校を2校、中学校を1校新設する必要があります。そうすることで、国が示す適正規模の教育環境を整えることとなります。しかし、財政の問題や土地の問題があります。全てを包括的に考えて、教育委員会としては、中学校を1校新設して5－4制を導入することで、活路を見出すということです。

本市の教育は、中学校を中心とした、小学校と中学校が一体となったコミュニティ・スクールを推進しています。学識経験者、学校の先生、保護者の代表、行政の代表、地域の代表と、5つの分野から代表者が入り、学校運営協議会を組織して、教育内容の協議をしています。言い換えれば、学校と地域と家庭と行政が一体となって、子ども達を育てていく横の繋がりを進めています。

今言われているのは、9年間を見通して子どもを育てるということです。そのためには、小学校と中学校のスムーズな接続にも手を打つ必要があります。5－4制の導入はそのことについて、活路を生み出すことができるということです。

福岡県で5－4制を導入している自治体はありません。

京都市では、御池中学校という学校が5－4制を導入しております。平成12年ぐらいから導入しておりますので、既に20年近く5－4制に取り組んでおります。視察に行き、話を聞いてきたのですが、それなりの成果が上がっているということでした。

私としては、それぞれの中学校区を単位として、コミュニティ・スクールの活性化と、スムーズな小学校と中学校の接続を進めていただきたいと考えています。

そのためには、やはり郷づくりとの連携等も生かしていきたいと考えています。従いまして、できるだけ校区の再編は避けたいということです。

そして、できるならば一小一中、あるいは二小一中ぐらいのつながりで進めていきたいと考えています。

そう考えると、竹尾緑地に新設校を建てるということになると一小一中になります。福間中学校に関しても一小一中です。津屋崎中学校は二小一中です。福間東中学校は三小一中になるのですが、それぞれの中学校区で、特色化を出しながら学校を運営していただきたいと考えています。

竹尾緑地に新設校をつくるということになると、これだけ住宅が密集した地域の中で、日々生の自然に触れられるような学校生活をおくれるというのは、福岡県で珍しいと思います。津

屋崎中学校区であれば、津屋崎千軒や、あるいは水産高校、あるいは勝浦小学校に長く続いている伝統行事など、非常に地域と密接した、子どもの心を育てるような教育もできます。福岡東中学校区であれば、上西郷小学校の英語特区にしたり、あるいはICT機器を活用して、遠隔な小中一貫の授業を行ったり、グローバル化に目を向けた特色ある中学校区として進めてほしいと思います。

それぞれの中学校区で、地域のひと・もの・ことを生かした特色ある学校経営を行い、またコミュニティ・スクールの良さを生かしながら、小学校と中学校のスムーズな接続ができるような教育をしてほしいと思っています。

新設の中学校ができれば、そのように取り組んでいければと考えております。

市長：新設校を複数建てるのは難しいと思いますが、本当に過大規模校が解消される児童数になると良いなと思います。

毎回総合教育会議では、副市長からも感想をいただいております。本日の総合教育会議の感想並びにご意見をお願いします。

副市長：教育委員の皆様方のご意見と貴重なご助言をいただきありがとうございました。

今の福津の子ども達を取り巻く教育施設の環境は危機的な状況です。本当に一日も早くこの状況を解決しなければいけないということは、全市民の皆様にも御理解していただいていると思います。様々な制約条件の中で、私達はこの危機的なピンチをどうチャンスに変えてくのかという発想に立ったときに、今回、教育部の方は、いろいろな方の御意見を聞きながら提案をしてくれたと思っています。ピンチがチャンスが変わったところがたくさんありまして、これからの未来に向けて、ポジティブなところをどう生かしていくのか、一致団結することが大事だと思います。

小中一貫の9年間を見通した教育を、文部科学省も現在進めております。身体的にも発達の状況が昔と今の子ども達は違っていますので、5—4制の方が理にかなっているという化学的なデータもございます。

それから、この小中一貫教育の取り組みをするためには、やはり地域の協力、それから先生方の協力がなくともうまくいかないと思います。その点に関しては本当に福津市は恵まれています。これまでもたくさんの地域の方々が学校の運営に協力していただいていますので、その力を生かして、他のどの地域よりもこの小中一貫5—4制を成功させる力があると思っています。

また、緑の中で子どもたちが学ぶということなのですが、確かにこれだけの生物多様性の豊かな場所で、人が活動するとい

うことは一見環境に対して負荷がかかると、御心配される方も多いと思います。しかし一方で、環境保全というのは、ただ放っておいて保全できるものではありません。人が関わって活用することによって保全していくという考え方が、今は主流になってきていますので、たくさんの方がこのエリアの環境保全に関われる機会が増えると考えています。そのような生物多様性を学校生活の中で学ぶ子ども達というのは、大人になっても、環境保全に対して、力を発揮してくれる人材が育つのではないかと、大変期待をしております。

市長：はい。ありがとうございました。

終了の時刻が近づいておりますが、最後に教育委員の皆様からもお願いいたします。

青木委員：私達は建物のことや、土地のこと、まして財政のことは、素人なので専門の方にお任せするのですが、この件をどう進めていくかは、市長さんのお心持ちで変わってくると思いますので、良い決断を早くしていただきたいと思います。

今村委員：6月の議会には、ある程度結論は出さなければいけないと思いますので、よろしくお願いいたします。

半澤委員：いろいろな問題もあるかと思いますが、福津の子ども達のために、1年でも早く教室の整備等ができればと思いますので、大変だと思いますが、よろしく申し上げます。

藤井委員：私はやはり子どもたちのために、今の子どもたちが生き生きとする場を早くつくってあげたいと思います。福津の未来のために、一日も早く進めてほしいと思います。

市長：わかりました。

児童数が増える中で、私もずっとそのつもりで進めていたのですが、なかなかじくじたるものがあつたのは、特別支援教育の児童が増えるのでその支援を行ったり、また待機児童に対応するために保育所をつくっても、どうしても後追いで整備しているようになってきたりすることです。『子育てしやすいまち』というように本当は掲げたい思いもあるのですが、どうしてもどちらかという後追いで整備しているような感じになります。

学校は40年以上使用することになります。福間南小学校と神興東小学校と福間東中学校ができたのは、もう40年から45年前の話です。当時は福間町と津屋崎町を足しても人口4万人にもならない町でした。

後2、3年後には福津市の人口は7万人を超えたいと思います。その中で、本当に新設して良かったと、いろいろな方に感謝され、また児童生徒が輝き続ける学校にしたいと思います。新しい学校ですから、50年、そして100年経ってもしっかりと続いていける、そういう学校をつくるべきだと考えております。広いまちづくりの観点から、またこれからのまちづくりの観点から、お金がかかっても必ず新設校は実現させなければい

けないと、そのように思っておるところでございます。
本日は本当に貴重なお話し等ありがとうございました。

4 閉会の宣言

榊：それでは、以上をもちまして、平成31年度（令和元年度）第3回総合教育会議を終了させていただきます。次回は来年度の実施になります。日程等決まりましたら、改めて御連絡いたしますので、よろしく願いいたします。本日もさまざまな御意見をいただきありがとうございました。これにて終わりたいと思います。どうもありがとうございました。